



『手足の指の形づくりに関わる細胞死： カエルと我々哺乳類の間で明らかとなった共通の仕組み』

西川 彰男 島根大学生物資源科学部 教授

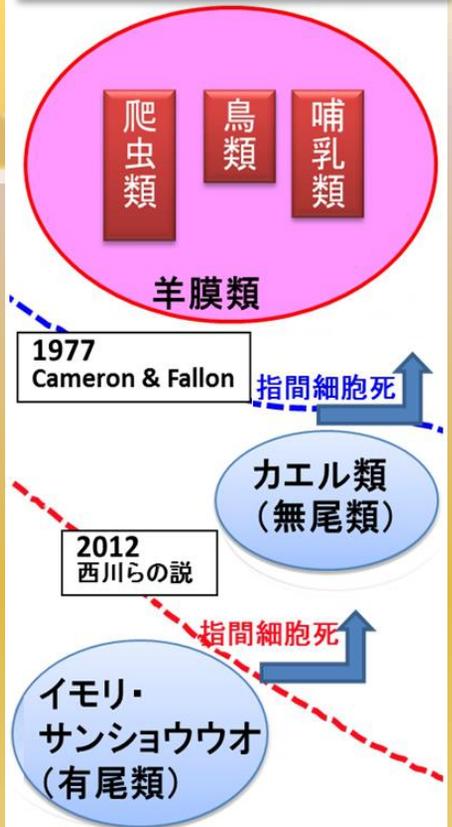
指間細胞死は肢芽の不要部分を削り、独立した指を形成していく仕組みです。

しかしカエルでは指間細胞死が起きないことが、1977年に米国キャメロン氏らが公表して以来の定説でした。なぜカエルでは指間細胞死が起きないのか。今回、我々はさまざまな工夫を凝らすことで、カエルでの指間細胞死の存在を証明しました。

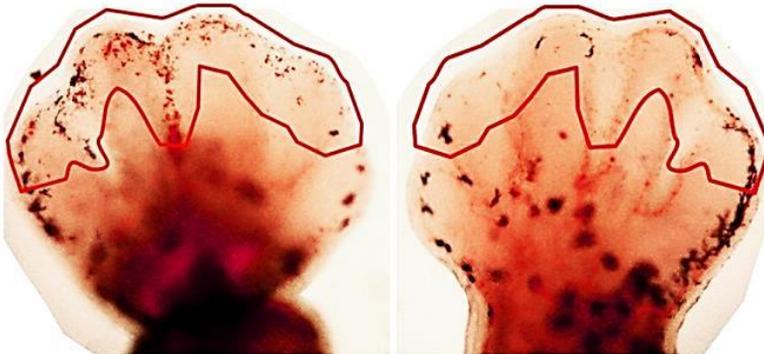
みなさんと一緒に、指を作るというカエルとヒトの間で共通な仕組みを通して、生物の形づくりの秘密を考えていきます。



指間細胞死の進化に関する考え方



ツメガエルにおける骨形成因子による指間細胞死の誘導



骨形成因子(BMP蛋白)で処理した肢芽

未処理の肢芽

日時 平成26年8月25日(月)14:00~15:30

場所 くにびきメッセ 6階大会議室

松江市学園南一丁目2番1号 TEL0852-24-1111

定員 80名
参加費 無料

●申込み・問合せ先●

島根大学サイエンスカフェ世話人 板村 裕之(生物資源科学部教授)

島根大学研究協力課 山砥・錦織

TEL:0852-32-9727 FAX:0852-32-6488 e-mail:rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp

☆お申込みの際は、氏名・住所・電話番号をお知らせください。□

